

章一節一施策		第4章一節一		施策名		幼児教育							
現状	本施策の方向性	(1)生きる力の基礎を培う幼稚園づくり…①学習環境の整備 ②教職員の研修の充実 (2)子育て支援体制の整備…①相談支援体制の充実(※再掲) ②子育て情報提供の充実(※再掲)											
	施策の推進により期待された効果	幼児期の特性をふまえ、幼児一人ひとりの発達段階に応じた指導によって、伸び伸びとした学習が可能となり、「生きる力の基礎」を着実に育てることが期待できます。 また、子育て環境を整備することで、保護者の子育てに関する不安や悩みを解消することが期待できます。											
	施策指標の達成状況	指標名	単位	第1期実施計画			第2期実施計画			第3期実施計画			
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
		安心して子育てができると思う人の割合	%		66.8			66.4			71.9	76.6	70.0
※上段:目標値 下段:実績値	指導方向上のために、研修会に参加した教職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
これまで実施した主な事業	教職員研修・教育活動普及事業 幼児教育アクションプログラム策定事業												
効果・検証	達成できた(見込み)事項	平成22年度に「袖ヶ浦市幼児教育振興アクションプログラム」を策定し特色ある教育を実施した。平成29年度には市立幼稚園・保育所共通の幼児教育カリキュラムを策定し、市立及び私立の幼稚園・保育所へ配付することにより、一貫性のある幼児教育に取り組んだ。 また、教育・保育を一体的に包括し、多様な保育サービスを推進して市民ニーズに対応する認定こども園が開設された。											
	その効果	「袖ヶ浦市幼児教育振興アクションプログラム」に基づき、「生きる力」の基礎を養う幼児教育の充実を図ることができた。平成29年度に「袖ヶ浦市幼児教育カリキュラム」を策定し、幼稚園・保育所における一貫した幼児教育の実践と小学校への滑らかな接続を推進することができた。また、相談体制の充実により、保護者が心にゆとりを持った子育てができるよう支援できた。											
	達成できなかった(見込めない)事項												
	その原因・理由												
	今後の主な課題(積み残し、新規)	中川幼稚園と令和元年度から統合した今井幼稚園跡地のあり方等について検討する必要がある。また、幼児教育・保育無償化の流れを見据え、その対応を図る必要があるが、特に平川地区における幼児教育と保育のあり方についての検討が必要である。											
評価	一次評価	◎	理由	各種取組みを進め、幼児の発達段階に応じた指導を行い、「生きる力の基礎」が着実に育むことができるとともに、子育て相談窓口を設置し、子育てに関する情報提供を行い、保護者の不安や悩みの解消が図られており、施策指標についても達成している。									
	二次評価	◎	理由	施策指標は目標値を達成しており、「生きる力の基礎」を着実に育むことができている。 引き続き、取組みを推進するとともに、幼児教育・保育の無償化に伴う影響等を注視しつつ、今後の幼児教育と保育のあり方についての検討が必要である。									

章一節一施策		第4章一節一2		施策名		義務教育						
現 状	本施策の方向性	(1)生きる力を育む学校教育の推進…①確かな学力に向けた授業改善の推進 ②豊かな心を育む体験活動の推進 ③基本的な生活習慣の確立と体力の向上 ④開かれた学校教育の推進 (2)社会の変化に対応する学校教育の推進…①教育環境の整備と教職員の研修の充実 ②社会変化に対応できる児童生徒の育成 ③思考中心の学力の育成 (3)学校施設の整備…①学校施設の耐震化等の促進										
	施策の推進により期待された効果	少人数指導をはじめとするきめ細かな指導や授業改善によって、子どもたちの「確かな学力」の向上が期待できます。 様々な体験活動を通して、子どもたちの思いやりの心や規範意識の育成が期待できます。 様々な評価の実施や公表を通して、「開かれた学校づくり」の実現や、信頼される学校教育が期待できます。 施設整備により、児童生徒が安心・安全な環境で学ぶことができます。										
	施策指標の達成状況	指標名	単位	第1期実施計画			第2期実施計画			第3期実施計画		R元
	※上段:目標値 下段:実績値	授業がわかり、学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合	%	H22 80.0	H23 85.0	H24 91.6	H25 96.5	H26 97.9	H27 95.5	H28 91.4	H29 87.3	H30 88.4
効 果 ・ 検 証	達成できた(見込み)事項	各小中学校への市単独の職員配置や体験活動の充実を図ったことにより、児童生徒の生きる力を育む学校教育を推進できた。 教職員研修を充実し、情報教育や読書教育、国際理解教育を推進することにより、児童生徒の探究型の学力が身につく、社会の変化に対応できる児童生徒が育成できた。 学校施設の耐震化を図ることができた。										
	その効果	「生きる力」を育む学校教育を推進することにより、「確かな学力」や思いやりの心、規範意識の育成が図られた。また、「社会の変化に対応する学校教育」を推進したため、開かれた学校づくりが進み、学校の信頼が高まりつつある。 学校施設の耐震化の推進により児童生徒が安全安心な環境で学ぶことができるようになった。										
	達成できなかった(見込めない)事項	授業がわかり、学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合は目標値を概ね達成しているものの、本来であれば、すべての児童・生徒がそう感じられる教育が望ましいことから、引き続き、100%の達成を目指した取組みを推進する必要がある。										
	その原因・理由	社会情勢の変化や家族のあり方、教職員の多忙化等様々な要因が考えられ、より一層、一人一人に寄り添う教育の推進が求められる。										
評 価	今後の主な課題(積み残し、新規)	令和2年度の新学習指導要領の完全実施に向け、主体的で対話的な深い学びの実現による「確かな学力」の育成や、特別の教科道徳や外国語教育への対応のための教職員研修の充実を図る必要がある。また、特別な支援を要する児童生徒の増加に対応する教職員体制の構築も必要である。 教育施設においては、時代のニーズに対応した改修等の対策を進める必要がある。 時代の変化とともに新たな課題に対応した本市学校教育の一層の発展を目指す必要がある。										
	一次評価	◎	理由	施策指標の目標値は概ね達成しており、本市の学校教育が目指す子ども像である、「夢をもち 心豊かな たくましい子ども」を育成するための取組みは推進できている。 また、学校施設関係については、耐震化の達成や非構造部材の改修など計画的に実施できており、児童生徒が安全・安心で質の高い教育環境で学び生活できる環境の整備が進んでいる。								
二次評価	◎	理由	施策指標は概ね目標値を達成しており、子どもたちの「確かな学力」の向上、良好な教育環境の整備に寄与することができた。 令和2年度の新学習指導要領の完全実施に向け、教職員研修の充実や体制の構築に努めるとともに、引き続き、「夢をもち 心豊かな たくましい子ども」の育成に向けた取組みが必要である。									

章一節一施策		第4章一節一3		施策名		青少年健全育成							
現 状	本施策の方向性	(1)青少年健全育成の推進…①青少年健全育成体制の充実 ②青少年健全育成事業の推進 ③健全な社会環境づくりの推進											
	施策の推進により期待された効果	青少年健全育成体制が整備され、地域全体で青少年の健全育成に取り組むことにより、青少年を心身ともに健やかに育成できる社会環境が構築されます。 青少年の自主性、主体性が育まれることにより、社会の変化に主体的に対応できる青少年の健全育成が期待されます。											
	施策指標の達成状況	指標名	単位	第1期実施計画			第2期実施計画			第3期実施計画			R元
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
		青少年が健やかに育っていると思う市民の割合	%		59.6			65.3			69.5	75.8	66.0
※上段:目標値 下段:実績値													
これまで実施した主な事業	放課後子ども教室事業 わんぱくクエスト事業 地区住民会議支援事業												
効 果 ・ 検 証	達成できた(見込み)事項	青少年育成袖ヶ浦市民会議と青少年相談員の活動を支援し、青少年を健やかに育成できる体制を充実させることができた。また、子ども達に放課後安心して過ごせる場所を提供するとともに、自然体験や社会体験などにより青少年の自立や忍耐、協調性を養い、これからの袖ヶ浦市を担う人材の育成を図ることができた。 また、地区住民会議と青少年相談員が連携し、夏季・冬季の長期休業時におけるパトロールの実施やデイキャンプの実施などを通じて、健全な社会環境づくりを推進した。											
	その効果	各取組みの推進により、子どもたちが異年齢交流や地域の大人との交流が図れ、社会の変化に自ら対応できる青少年を健やかに育成することができた。											
	達成できなかった(見込めない)事項												
	その原因・理由												
	今後の主な課題(積み残し、新規)	地区住民会議や青少年相談員などへの若い世代のボランティア活動の参加や、放課後子ども教室の運営ボランティアによる安定した運営など、人材を確保するための取組みが必要である。											
評 価	一次評価	◎	理由	地区住民会議や青少年相談員の活動を支援し、世代間の交流や子ども同士が安心して過ごせる場を提供することにより、青少年が心身ともに健やかに育つ社会環境が整えられた。									
	二次評価	◎	理由	成果指標は目標値を達成しており、青少年の健全育成に寄与することができた。 引き続き、地区住民会議や青少年相談員活動等を支援し、地域全体で青少年の健全育成に取り組む必要がある。									

章一節一施策		第4章一2節一1		施策名		生涯学習							
現状	本施策の方向性	(1)生涯学習推進体制の整備…①生涯学習ネットワークの整備充実 ②生涯学習ボランティアの養成と活動の促進 ③生涯学習情報の収集と提供システムの充実 ④社会教育関係団体活動への支援 (2)社会教育の充実…①家庭教育への支援 ②地域の教育力の向上 ③公民館活動の充実 ④図書館活動の充実 ⑤社会教育施設の整備充実											
	施策の推進により期待された効果	市及び関係団体による生涯学習推進組織の充実を図り、生涯学習活動を支援することで、市民が生涯を通して積極的に学びあい、学習の成果を活かし、自ら地域の課題を解決することのできる地域社会の実現が期待されます。											
	施策指標の達成状況	指標名	単位	第1期実施計画			第2期実施計画			第3期実施計画			
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
		市民一人当たり図書貸出数	冊	10.5	10.9	10.6	11.2	11.5	9.0	8.6	10.2	12.0	
※上段:目標値 下段:実績値	身近に学習ができる場や機会があると思う市民の割合	%		46.8			48.8		42.6	44.1	60.0		
これまで実施した主な事業	生涯学習ボランティア促進事業 家庭教育総合推進事業 生涯学習情報提供システム 市民三学大学講座 公民館地域連携推進事業					図書館電子情報サービス推進事業 読書普及活動推進事業 公民館改修事業 社会教育施設吊天井等耐震対策事業 市民会館外壁屋根改修事業							
効果・検証	達成できた(見込み)事項	各種ボランティアの養成講座を実施しボランティアの人材育成や社会教育団体への支援を図るとともに、施設予約システムを利用し施設の予約手続の効率化と利便性の向上により生涯学習推進体制の整備を図ることができた。 公民館や図書館での家庭や地域の教育力の向上に向けた支援、老朽化した施設の外壁屋根改修工事や多目的ホール等の吊天井耐震対策工事を計画的に実施できた。											
	その効果	生涯学習推進体制の整備により、市民の学習ニーズや市民一人ひとりの学習機会を提供することができた。 公民館や図書館での学習を通じ、新たな人間関係が構築され自主的な活動へ発展し、社会教育の充実を図ることができた。											
	達成できなかった(見込めない)事項	公民館や図書館での学習により、市民の自主的な活動へと広がりを見せたものの、自ら地域の課題を解決する活動までには至らなかった。											
	その原因・理由	市民の価値観やライフスタイルの多様化により、地域のつながりが希薄化している。また、生活上の課題や地域の課題を積極的に取り上げ、柔軟に講座を見直すことが十分ではなかったと考えられる。											
	今後の主な課題(積み残し、新規)	公民館や図書館での学習が、自ら地域の課題を解決する活動につながるよう、ニーズの掘り起こしや人材の育成・発掘をしていく必要がある。 生活上の課題や地域の課題を積極的に取り上げ、柔軟に講座を見直す必要がある。											
評価	一次評価	○	理由	公民館や図書館での学習について、生涯学習活動を支援することで、市民の自主的な活動へと広がりが見られた。 多様化する市民の学習ニーズに応えるため、生涯学習ボランティアや図書館ボランティア養成講座を実施し、学習の成果を活かした講座等の運営など、市民の主体的な活動の支援ができた。									
	二次評価	○	理由	引き続き、多様化する市民ニーズを的確に捉え、学習の場を提供し、市民の生涯学習活動を支援するとともに、市民相互に学び合い、自ら地域の課題を解決することのできる人材を育成し、市民協働のまちづくりに取り組む必要がある。									

章一節一施策		第4章一2節一2		施策名		文化・芸術							
現状	本施策の方向性	(1)文化・芸術活動の推進…①文化・芸術振興のための組織体制の充実 ②文化・芸術鑑賞機会の充実 ③文化・芸術を支える人材の育成 (2)郷土の歴史と文化の保存・継承…①文化財の調査と指定 ②文化財の保護・保存と活用 ③伝統文化継承活動の支援 ④博物館活動の充実											
	施策の推進により期待された効果	多くの市民が地域に根ざした文化芸術活動の担い手として様々な活動を展開することにより、多様な地域文化が創り出されます。 地域の文化財や伝統文化が身近な存在として捉えられることにより、地域への愛着心が高まり、心豊かな地域社会の実現が期待されます。											
	施策指標の達成状況	指標名	単位	第1期実施計画			第2期実施計画			第3期実施計画			R元
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
		市美術展の入場者数	人	1,806	1,719	1,645	2,055	2,705	2,755	2,623	3,852	2,729	2,000
郷土博物館の入館者数		人	31,205	30,330	30,996	27,769	31,417	36,120	33,811	34,460	34,755	33,000	
※上段:目標値 下段:実績値		1年間に芸術を鑑賞した市民の割合	%		46.9			49.7			49.3	48.2	55.0
	指定文化財の件数	件	33.0	33.0	33.0	34.0	35.0	36.0	36.0	37.0	38.0	42.0	
これまで実施した主な事業	芸術活動普及事業・袖ヶ浦美術展活性化事業					地域資料管理活用事業							
	民俗・芸能保護継承事業					展示更新推進事業							
効果・検証	達成できた(見込み)事項	市民学芸員の活動支援や協働事業の推進のほか、袖ヶ浦市美術展の組織体制の見直しを図った。山野貝塚が市内初の国史跡指定となったほか、市指定文化財として新たに5件を指定した。郷土博物館では、展示の企画内容の充実に努め、文化財に触れる機会を提供した。											
	その効果	市民学芸員の活動が活性化するとともに、袖ヶ浦市美術展を市民主体の実行委員会で運営することにより、文化芸術活動を支える人材の育成が図られた。 市指定文化財の新規指定や文化財に触れる機会の提供により、市民の地域への愛着心向上に寄与できた。											
	達成できなかった(見込みない)事項	1年間に芸術を鑑賞した市民の割合は横ばい状態にあり目標値の達成は難しい状況である。指定文化財の件数については、当初の目標値は達成したものの、目標値を上方修正したことから達成は難しい状況である。											
	その原因・理由	既存事業における芸術鑑賞の機会が増加していないため。また、娯楽や趣味の多様化による影響もあると考えられる。 文化財の指定には、調査研究や事務手続等、多くの時間を要するため。											
	今後の主な課題(積み残し、新規)	地域に存在する文化財を、歴史環境も含め総合的に把握した上で、文化財の保護・周知を進めつつ、地域振興等にも活用できる仕組みづくりを検討していく必要がある。 市民学芸員等のボランティアによる活動充実を図るため、新たな人材を確保する必要がある。 市内文化財については、調査が完了していないものも多く、引き続き重要度により十分な調査研究を行い、指定文化財として指定する必要がある。											
評価	一次評価	○	理由	文化芸術活動を支援するとともに、組織体制の充実や、人材の育成に取り組み、文化芸術活動の活性化に寄与した。 地域の文化財や伝統文化に触れる機会を提供し、地域への愛着心が高まり、心豊かな地域社会の実現に寄与した。									
	二次評価	○	理由	引き続き、文化芸術活動を支え、担う人材の育成、確保に取り組むとともに、国史跡指定となった山野貝塚の保存活用について検討し、文化財保護の意識高揚や郷土を愛する豊かな心の育成に取り組む必要がある。									

章一節一施策		第4章一3節一1	施策名	スポーツ・レクリエーション・体育									
現状	本施策の方向性	(1)スポーツ・レクリエーション活動の推進…①総合型地域スポーツクラブの育成・支援 ②地域スポーツ・レクリエーション環境の整備 (2)スポーツ・レクリエーション施設の整備…①社会体育施設の改修、整備 ②学校体育施設の利用促進 (3)学校体育の推進…①教科体育指導の充実 ②運動部活動の支援											
	施策の推進により期待された効果	生涯にわたりスポーツやレクリエーション活動に親しむ市民が増加し、活力に満ちた顔の見える地域社会の形成が進みます。 教科体育や運動部活動の指導を通して、規範意識や「自分の健康は自分で守る」意識、さらに、高い運動能力や体力を身に付けた豊かなスポーツライフを実現できる児童生徒が育成されます。											
	施策指標の達成状況	指標名	単位	第1期実施計画			第2期実施計画			第3期実施計画			
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
		総合型スポーツクラブの活動参加割合	%	46.5	47.2	48.1	47.2	47.2	48.7	59.0	60.0	48.2	50.0
※上段:目標値 下段:実績値													
これまで実施した主な事業	総合型地域スポーツクラブ活性化事業 学校体育指導研修会事業 武道教育推進事業 広域スポーツ交流事業 臨海スポーツセンター再整備事業					臨海スポーツセンター改修事業							
効果・検証	達成できた(見込み)事項	各総合型地域スポーツクラブへ補助金を交付し、ウォーキングイベントやクラブ間交流会等の活動支援を行うとともに、スポーツ・レクリエーションの環境整備に努めた。 施設整備は、陸上競技場管理棟の改修工事を実施した。 小中学校教員を対象とした体育実技研修会・授業研究会を開催し、指導力向上を目指した研修機会の提供・充実に努めた。また、希望する幼稚園・小・中学校において、外部指導者を講師として派遣し授業支援を行った。											
	その効果	各総合型地域スポーツクラブの活動を支援し環境整備に努めたことで、スポーツ・レクリエーションに親しむ市民を増加させることができた。 教員の指導力向上により、児童生徒の規範意識や運動能力育成に寄与することができた。											
	達成できなかった(見込みでない)事項	総合型地域スポーツクラブの活動参加割合について、年度により達成、未達成があった。 新体力テストの県平均を上回る項目の割合について、目標値を達成できなかった。											
	その原因・理由	総合型地域スポーツクラブについては、市連絡協議会主催イベントの参加者は増加したが、天候の影響等により各種目の定例活動が実施できなかったことで、年度により増減があるため参加延べ人数は減少した。 新体力テストの県平均を上回る項目の割合については、非常に高い目標値の設定(全項目で県平均を上回らなければならない)で、達成は難しい。											
	今後の主な課題(積み残し、新規)	総合型地域スポーツクラブの会員数を増加させるため、市連絡協議会を中心に各クラブ間の連携を密にし、気軽に参加できるイベントの開催やPR活動が必要である。 社会体育施設の老朽化が進行しており、計画的な改修や修繕が必要である。											
評価	一次評価	○	理由	総合型地域スポーツクラブの活動が、地域に定着しており、地域コミュニティの活性化や交流の場の提供に寄与できている。 学校体育については、職員研修等の実施による教員の指導力も向上が図られた。									
	二次評価	○	理由	引き続き、総合型地域スポーツクラブの活動支援等の取組みを継続し、市民誰もが生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境づくりに努めるとともに、健康づくりとしてのスポーツ・レクリエーションの普及、啓発に他部署とも連携し取り組む必要がある。									